カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095-843-3869
FAX 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

2023年度 行事予定

※行事の追加や日程などの変更があり得ます

月　日	行　事	場所など
5月　3日 ㊌	教区評議会総会	カトリックセンター
3日 ㊌	第143回クルシリヨ（5/6まで）	お告げのマリア修道会本部
4日 ㊍	青年のための巡礼ウオーク(5/5まで)	平戸・生月
6日 ㊏	聖書講座（全10回、9/16まで）	カトリックセンター
14日 ㊐	井持浦ルルド祭	井持浦教会
14日 ㊐	永井隆博士に関する講演会	浦上教会
21日 ㊐	雲仙殉教祭	雲仙メモリアルホール
28日 ㊐	『旅』の終わり150周年記念① ロザリオ行列とミサ	西坂公園～（行列） ～浦上教会
6月 18日 ㊐	中村大司教と青年の交流会	大浦天主堂～(徒歩巡礼)～浦上教会,大司教館
20日 ㊋	教区司祭黙想会（6/23まで）	大司教館
7月 23日 ㊐	『旅』の終わり150周年記念② 高校生による演劇上演	浦上教会
8月　予定	教区高校生黙想会	大司教館
1日 ㊋	ワールドユースデーリスボン大会(8/6まで)	ポルトガル
9日 ㊌	平和祈願祭（長崎）	浦上教会・平和公園
15日 ㊋	聖母平和祈願祭（佐世保）	アルカスSASEBO
17日 ㊍	沖縄平和学習（8/19まで）	**高校生対象**
9月　3日 ㊐	大村殉教祭	シーハットおおむら
10日 ㊐	『旅』の終わり150周年記念③ 十字架山殉教祭	長崎・十字架山
17日 ㊐	福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭	焼罪史跡公園
24日 ㊐	聖トマス西と十五殉教者祭	中町教会
10月　予定	カトリック講座（2024年2月まで）	カトリックセンター
4日 ㊌	シノドス第1会期(10月29日まで)	バチカン
14日 ㊏	日本カトリック障害者連絡協議会 長崎大会（10/15まで）	純心大学
22日 ㊐	牢屋の窄殉教祭	久賀・牢屋の窄
11月　1日 ㊌	司教座聖堂献堂記念日・記念ミサ	浦上教会
5日 ㊐	死者の月・教区主催追悼ミサ	福江教会
12日 ㊐	黒瀬の辻殉教祭	生月・クルスの丘公園
12月　3日 ㊐	平戸ザビエル祭	平戸
1月 18日 ㊍	キリスト教一致祈祷週間(1/25まで)	**キリスト教諸教会**
2月　4日 ㊐	日本二十六聖人殉教記念ミサ	西坂公園
3月　予定	教区青年黙想会	大司教館
17日 ㊐	日本の信徒発見の聖母記念ミサ	大浦天主堂
通　年	聖書愛読運動	**教区評議会**
通　年	一粟募金（災害救援募金）	〃
12/1～1/15	クリスマス愛の募金	〃

2023年度

教区評議会総会 開催

『旅』の終わり150周年についての情報共有も

5月3日（水）、カトリックセンターホールを会場に2023年度教区評議会総会が開催され、各小教区の代表らが参加した。新型コロナの影響が落ち着いてきたことにより、今回は4年ぶりの通常開催となった。

はじめに中村倫明大司教のあいさつがあり、「宣教や召命において声掛けなどの呼びかけを大切にしてください」「そろそろ小教区の再編成への心づもりをしておいてください」と語った。午前中は前年度の会務報告、決算報告などの他、新役員の任命、今年度の予算審議が行われた。

また午後は、教区シノドス提言推進、『旅』の終わり150周年記念行事、ミゼリコルディア長崎、カトリック障害者連絡協議会長崎大会などについて、担当者・関係者からそれぞれ説明があり、情報を共有した。新役員は以下の通り。

教区評議会役員

会　長　中村倫明大司教
副会長　山脇　守（総代理・長崎南地区長）
議　長　森田浩介（長崎中）
副議長　植田道雄（長崎南）、内野靖典（佐世保）、田村豊子（長崎南）
事務局長　葛嶋秀信（教区本部事務局長）
事務局次長　大水文隆（教区本部事務局次長）
書　記　白濱明彦（長崎中）、川口哲朗（長崎北）
会　計　宮﨑儀行（長崎北）、野口達人（長崎南）
委　員　岩本繁幸（教区会計）、中濱敬司（信仰養成）、紙﨑新一（福音化推進）、大水　満（家庭）、平本義和（典礼）、山田良秋（広報）、辻原達也（召命）、山村憲一（長崎中地区長）、川原拓也（長崎北地区長）、山内　実（佐世保地区長）、川内和則（平戸地区長）、中濱繁喜（上五島地区長）、中田輝次（下五島地区長）、鶴﨑伸也（女性部担当）、浜田新一（上五島）、赤尾一美（下五島）、上河綾乃（長崎中女性部）、安藤美津子（長崎北女性部）、松田澄子（佐世保女性部）、山野郁子（平戸女性部）、切江ミドリ（上五島女性部）、村中久美子（下五島女性部）、深堀晴美（修女連）

※平戸地区から選出される委員は現在未定。

平和を願い、宣言文発表

5月19日のG7広島サミット開幕を前に15日、アメリカと日本の4つの教区（サンタフェ、シアトル、広島、長崎）はG7首脳あてに「この機会に、地球規模の検証可能な核軍縮に向けた具体的な措置を講じることを強く求めます」とし、世界平和を願って共同宣言文を発表した。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼4月23日付任命
教区家庭委員会 委員長　大水　満師
教区信仰教育委員会
委員長　中島　誠志師

▼コンベンツアル聖フランシスコ修道会〔4月〕
稲国　安彦師　湯江修道院付、養護老人ホーム聖フランシスコ園（沖縄）

▼フランシスコ会〔4月18日付〕
松本　巌師　本原助任〔長崎修道院所属〕

カ障連の発足と長崎大会に向けて

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑩

日本カトリック障害者連絡協議会〔カ障連〕
会長　江戸　徹

長崎大司教区、大司教様はじめ司祭、信徒の皆様、日頃より日本カトリック障害者連絡協議会（以下カ障連という）の活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

また、今秋10月14日・15日に長崎大司教区において開催予定の第15回カ障連全国大会準備では、司祭、信徒、実行委員会の皆様の多大なるご協力に重ねて感謝申し上げます。

カ障連全国大会は、これまで3年ごとに開催されていましたが、コロナ感染拡大により延期を余儀なくされ、2018年横浜大会開催後5年ぶりに2023年10月14日・15日に長崎教区において開催されます。

1981年に教皇ヨハネ・パウロ2世が来日したのを機に全国から障害当事者のリーダーが集い、翌1982年に京都教区においてカ障連が設立され記念大会が開催されて40年が経ちます。以来、カ障連はどんなに重い障害があっても生きていてよかった、キリストの下に生まれてきてよかった、誰もが社会の中で必要で大切な人であり、ひとりで重荷を背負うのではなく、キリスト者として共に背負い、分かち合い、支え合う働きをカ障連の使命としてきました。

心のバリアフリーと言われるようになって久しいのですが、人々の心の中から差別や偏見がなくなる社会には程遠いと言うのが現状でしょう。「私は障害者に対して差別はしていません」「障害者にやさしく接しています」と多くの方が言われますが、現実には精神障害者やアルコール依存症者の施設が近隣の地域に建設されようとすると、地域住民から反対ののろしが上がります。明らかな障害者差別です。

障害があっても地域で自分らしく生活することができるよう、障害者自らが活動することによって、差別や偏見のない誰もが受け入れられる社会に変えていかなければなりません。

国においては2016年4月1日から「障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮をしないことは差別にあたると定義されました。この法律は全国の障害のある人の希望であり光です。

教会においては、教皇フランシスコが「誰ひとり排除しない、誰ひとり取り残さない教会を目指す」と話されたように、インクルーシブで共に歩む教会であってほしいと全国の障害当事者信徒は願っています。

今回の長崎大会では共に生きるをテーマにインクルーシブとは何か、教会におけるインクルーシブ防災を講演や分科会などで学び、なかなか集うことができない仲間と分かち合い、絆を深めていければと思います。また、参加したいと思っていても病気や何らかの事情で参加できなかった皆さんとともに、つながりを持って仲間の輪が広がっていくことを祈っています。

どうか障害の有無を問わず、このカ障連全国大会にご参加いただきますようお願いいたします。

2023年10月14、15日にカ障連長崎大会が開かれます。大会の準備に携わるカ障連長崎支部への参加はどなたでも可能です。皆様の参加をお待ちしております。

カトリック障害者連絡協議会
長崎支部
〒852-8113 長崎市上野町10-34
TEL 070-8569-0522
FAX 095-807-4910
ksrnagasaki@gmail.com
個人情報は門外不出を遵守いたします

ほしかげ

日本への入国制限が緩和され、外国人観光客の姿が目立つ。九州は東アジア圏からの観光客が多いが、円安の影響から、東南アジア、特にタイからの観光客が増加しているという。知人のタイ人と彼が働くカトリック系高校の先生たちが来日した。シンガポールより日本に行く方が安いし楽しかったと彼は言う▲タイといえば仏教国というイメージが強い。実際、都市部でも、地方に向かう車内からも、多くの仏教寺院を目にする。そんな「仏教の国・タイ」におけるカトリック教会に目を向けると、2つの大司教区と9つの教区からなり、信徒数は約29万（人口の約0.5％）、小教区数は436、司祭は700人弱とのこと。仏教の影響を受けた国であること、信徒数の人口比などからみても、教会の雰囲気は日本と似ている▲バンコク大司教区のカテドラルはアサンプション教会。バンコクの西、チャオプラヤ川沿いに建つ、ロマネスク様式の建物。隣接するアサンプション大学はタイの名門校。教皇フランシスコは、前回のタイ訪問を締めくくる行事として、このカテドラルで、若者たちのためにミサをささげられた▲昨年アジア司教協議会連盟の創立50周年記念総会が開かれたサンプランはタイで最もカトリックの人口比率が高い街。召命のきっかけのひとつでもあるこの街で、いつか、友人のタイ人司祭とともにミサをささげてみたい。（@）

現在、全世界の教会が歩みを共にしている「シノドス」は、❶「教区ステージ 2021年10月～22年8月」と❷「大陸ステージ 22年8月～23年3月」を経て、シノドス総会の❸「第1会期 23年10月」と❹「第2会期 24年10月」を迎える。本紙では今年1月号から3月号にかけて「長崎大司教区のまとめ」（❶に関連）を紹介した。今回は前号5月号に続き、昨年10月24日に教皇庁シノドス事務局が発表した「『あなたの天幕に場所を広く取りなさい』大陸ステージのための作業文書」（全文はカトリック中央協議会ウェブサイトに掲載）について、日本の各教区が行った分かち合いと意見交換の内容をまとめたレポート（❷に関連）を掲載する2回目。このレポートは、今年2月に開催された「アジア大陸別シノドス」に向けて、大陸ステージを主催したアジア司教協議会連盟（ＦＡＢＣ）に今年1月に提出された。これからも「シノドス」の歩みに心をとめてまいりましょう。

シノドス第16回通常総会に向けて

「大陸ステージのための作業文書」についてのレポート

2

2023年1月12日　日本カトリック司教協議会

5．存在に気づく

その一方で、耳を傾けて「聞く」よりも前に、様々な生活のあり方、生き方が存在することに「気づく」必要があるという指摘もありました。２０００年代以降、日本社会は自己中心的な社会となりつつあります。他者への関心は薄れつつあります。さらにこの数年の新型コロナウイルス感染症蔓延は、人と人とのつながりを断ち切るものとなりました。誰もが感染を恐れ、誰もが孤立の中にあります。そのような状況の中で、どのような生活があり、どのように人々が一生懸命に生き、どのような困難に直面しているかに「気づく」ことこそが何よりも重要であるという意見でした。「気づき」を促すための信仰の再養成が必要ではないかという提案もありました。なぜなら、ナザレのイエスこそが、人々の喜びと悲しみに気づく方だったからです。さらには信仰の共同体が行っている愛のわざとしての社会活動、例えばボランティア活動なども再編成しなければならないという建設的な意見が生まれました。社会活動の対象者が限定され、実は社会の中でもっと苦しんでいる人、貧しさにあえいでいる人々がいることに「気づく」べきだというものです。

このようにして教会は社会へと出かけて行く教会へと変わっていくでしょう。とりわけ、日本の社会には、外国人労働者が数多くいます。小教区共同体もごく少数の日本人信徒に対して、数多くの外国籍の信徒から成り立っています。彼らと共に生きていくためには、彼らの存在について「気づく」必要があるのです。

6．多くの人々と共につくる教会

このように日本にいる移動者、移住者と共につくる教会を目指さなければなりません。シノドス的教会を考える際に「誰と歩むのか」、「誰に寄り添うのか」、という疑問が生まれてきます。しかし、わたしたちが相手を選べるのではなく、目の前にいる人と「共に歩み」、目の前にいる人に「寄り添う」のが大切だという意見が数多くありました。教会に集ったわたしたちの目の前にいる人こそが、神さまからのギフトとして与えられたものなのです。

また、信仰の共同体での人間関係に疲れてしまい、時には傷ついた人々もたくさんいるという指摘もありました。こういった兄弟姉妹に寄り添うことも必要ではないのかという提案もありました。さらには、教会が行う環境問題への取り組みも「共に歩む」シノドス的教会を表すものだという意見も多くみられました。

そして、他宗教の方々、キリスト教諸派の方々と一緒に歩む可能性があることも見逃してはならないという意見もありました。「作業文書」52に指摘されている「信仰のあかしが殉教の域に達している」教会もあるという事実に大変驚いたという感想を分かち合ってくれた人がいました。「他の宗教の人々と共に歩むためには、預言の勇気が必要です」という一文は祈りと黙想のきっかけとなったそうです。

7．ケアという宣教の可能性

ある教区では司祭評議会において「ケア」という具体的な宣教の可能性が示唆されていることを、「作業文書」11（２）をテキストに分かち合いました。福音を告げ知らせることが福音宣教であるのは確かですが、具体的にいつ、どのような形で福音を告げ知らせるかを考えてみると、日常生活の中で多くの人々が行っている関わりと交わりとしての「ケア」があるという「作業文書」の指摘は、人をモノのように扱い、利益のみを追求しようとする現代社会にあって新しい宣教の可能性を示しているという分かち合いがなされました。そして、「自らのいのちをささげるまでにケアする」（11（２））神の姿を人々に伝えることで、真のケア、真の人間関係を教会が提示できるのではないだろうかという提案もありました。

「ケア」を真に霊的な体験へと変えていくことが福音宣教と結びつくという「作業文書」の意見は、さらに深められ、実践されるべきであると分かち合いました。

8．対話し、分かち合うことについて

以上のように開かれた教会、共に歩むシノドス的教会を目指すためには、「聞く」こと、「気づく」こと、「寄り添う」こと、そして「ケア」が必要であることは明らかになったと思います。そして、これらを実行していくためには「対話する」、「分かち合うこと」が何よりも大切な方法論であることにも多くの人々は気がついています。

しかし、その一方で、恐れもあります。まず、信仰の共同体の中で分かち合いの習慣がないという事実です。信仰や体験を「分かち合う」ことに慣れていないのです。また、高齢者が多い日本の社会では、自分の意見を押しつけてしまう人が意外に多いかもしれません。これは高齢者特有の寂しさ、孤独感から生じるものなのでしょう。さらに、信仰の共同体が何か新しいことを始めるときには、必ずネガティブな意見が多数を占めてしまうという事実も複数指摘されました。そのため若い世代や女性などが共同体の中で提案しても実行に移すことが難しいという事実も意見として出されました。

共に歩むシノドス的教会は、信仰の共同体の霊的な成熟に基づいて生まれていくのでしょう。この点について「作業文書」11（４）、（５）に指摘されているような生きた霊性による養成と典礼の重要性についての分かち合いと意見交換がなされなかったのは残念です。しかし、この点についても共同責任と共同識別と同じようにシノドス的教会の旅路の中で次第に自覚され、明確になっていくことでしょう。

おわりに

以上、簡単ですが「大陸ステージのための作業文書」についての日本の各教区でなされた分かち合いと意見交換をまとめました。２０２３年10月の本会議に議論するような具体的な提案はありませんでしたが、教会のあり方をシノダリティの観点から見つめ直す取り組みは日本の各教区ではなされています。２００年前に海外からの宣教師たちが始めた日本の教会は、こうして社会の中で生きるいのちの通った教会へと変化していくと思います。シノドスの旅路は始まったばかりです。聖霊の導きに従って歩んでいきましょう。

（終わり）

＊全文は中央協議会ウェブサイトに掲載

ペトロ岐部と187殉教者列福式記念墓地・髙見三明大司教祝福
カトリック長崎中央墓園
所在地：長崎市田中町3450番地6～7　既存道名：中尾木場（木場峠付近）
開発総面積：2648.66㎡　付帯設備：照明、水道、管理棟
自然の中で故人と静かに語りあえる天の門

〈区画／規格：1.5m×2.0m 3.0㎡〉
墓碑1区画（青・桜・白）……182.5万円　※自由区画もあります。
（永代使用料50万、管理費10年6万円、消費税を含む）
〈納骨堂式〉
納骨堂式1基（3段）……78万円
（永代使用料20万、管理費10年3万円 消費税を含む）
バリアフリー仕様
駐車場26台以上完備
トイレ・給水設備完備
十字架墓標祭壇完備
ゴミステーション完備
墓地管理委員会
〒850-0055 長崎市中町1-13 カトリック中町教会内　代表　主任司祭　山脇　守
TEL　095-823-2484　FAX　095-823-2486
問い合わせ
有限会社 長崎鉱栄商事（石材部　鉱栄石材）
〒850-0066 長崎市大浜 650-111　TEL 095-834-4910　FAX 095-834-4912

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ドミニコ　溝口悦雄
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL（0956）47－4380

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

長崎大司教区現勢統計表（2022/12/31 現在）

地域……	長崎県	小教区……	72		信徒数	司祭・他	総数
面積……	4,131 ㎢	準小教区……	1	2020年	58,343人	818人	59,161人
県人口……	1,279,871人	巡回教会……	56	2021年	57,615人	877人	58,492人
カトリック……	57,692人	集会所……	2	2022年	56,826人	866人	57,692人

小教区	信徒数			世帯数	洗礼		ミサ参加者			結婚				死亡
	男	女	合計		子ども	成人	主日	復活	降誕	信徒同士	混宗婚(1)	異宗婚(2)	他宗同士	
浦上	2,781	3,517	6,298	1,323	27	7	1,200	1,200	1,500	4	0	14	1	67
稲佐	356	408	764	253	3	0	120	170	220	0	0	2	0	10
城山	1,179	1,455	2,634	683	11	2	350	400	600	0	0	4	0	40
西町	961	1,175	2,136	712	1	1	300	400	450	0	0	1	0	29
本原	899	1,072	1,971	452	3	0	300	350	500	0	0	0	0	21
三ツ山	119	179	298	74	1	0	80	100	120	0	0	3	0	6
中町	547	801	1,348	480	5	5	250	320	350	2	0	10	4	26
神ノ島	180	240	420	160	0	0	130	170	250	0	0	1	1	6
木鉢	440	560	1,000	308	3	1	200	250	300	1	0	1	0	11
飽の浦	542	661	1,203	416	0	0	150	180	180	1	0	1	0	17
本河内	54	82	136	54	0	0	30	70	70	0	0	1	1	2
八幡町	148	216	364	101	0	0	40	60	60	0	0	0	0	4
愛宕	242	482	724	195	0	2	90	140	90	0	0	0	0	9
大浦	323	410	733	326	0	0	130	180	230	0	0	2	0	14
大山	75	135	210	86	0	1	70	100	100	0	0	0	0	3
小ヶ倉	310	424	734	249	0	0	120	170	170	0	0	0	0	7
深堀	512	620	1,132	283	1	1	180	200	240	0	0	0	0	14
香焼	196	240	436	170	1	1	130	230	230	0	0	0	0	6
馬込	117	196	313	190	3	0	200	200	200	0	0	0	0	6
滑石	1,736	2,052	3,788	665	8	9	400	500	600	3	0	3	0	25
出津	237	303	540	188	0	0	150	200	200	0	0	0	0	10
黒崎	335	370	705	202	3	1	150	200	200	0	0	0	0	14
時津	454	532	986	283	1	1	180	210	220	0	0	1	0	12
長与	456	480	936	301	3	5	160	200	330	0	0	1	0	8
東長崎	629	794	1,423	385	1	2	150	320	330	0	0	1	0	12
植松	775	931	1,706	483	5	3	300	400	400	0	0	0	0	16
水主町	309	326	635	207	3	2	150	200	230	1	0	0	0	11
諫早	491	632	1,123	300	4	1	150	250	300	0	0	4	0	9
愛野	26	31	57	22	0	0	10	15	15	0	0	0	0	0
島原	68	80	148	80	0	1	30	40	60	0	0	0	0	2
湯江	53	86	139	54	0	0	30	40	50	0	0	1	0	7
相浦	455	560	1,015	430	0	1	250	300	300	0	0	0	0	19
三浦町	472	674	1,146	374	8	2	70	285	333	0	0	0	0	18
鹿子前	297	362	659	176	2	0	220	320	350	0	0	5	0	6
俵町	311	353	664	241	7	2	180	250	300	1	0	3	0	9
大野	288	348	636	268	0	0	150	150	170	0	0	0	0	12
浅子	342	389	731	242	1	0	100	200	250	0	0	1	0	6
黒島	162	186	348	134	0	0	90	120	120	1	0	0	1	11
太田尾	151	101	252	101	0	0	80	110	150	0	0	0	0	3
神崎	801	867	1,668	344	6	1	300	650	650	1	0	2	0	10
褥崎	380	350	730	202	4	3	160	400	320	3	0	0	0	6
大崎	291	368	659	150	5	2	250	400	400	1	0	1	0	0
天神	202	235	437	114	0	1	65	80	80	0	0	0	0	5
早岐	234	280	514	157	3	0	100	100	120	0	0	0	0	7
佐々	329	393	722	246	7	0	170	200	250	0	0	2	0	9
平戸	289	345	634	201	3	0	120	150	150	0	0	1	0	9
上神崎	205	212	417	147	0	0	140	200	180	0	0	0	0	6
宝亀	149	174	323	96	1	0	100	150	120	0	0	0	0	4
田平	287	363	650	205	0	1	300	300	300	0	0	0	0	0
紐差	461	574	1,035	253	20	2	250	350	350	0	0	2	0	19
西木場	245	285	530	184	0	0	120	190	190	0	0	1	0	8
平戸口	161	177	338	106	0	0	90	110	120	0	0	0	0	8
山田	105	116	221	68	0	0	90	120	120	0	0	0	0	8
青方	131	159	290	116	2	1	90	120	200	0	0	0	0	2
大曽	172	168	340	127	2	0	150	250	250	0	0	1	0	10
青砂ヶ浦	450	517	967	345	0	0	120	150	130	0	0	0	0	14
丸尾	190	191	381	160	0	0	130	200	200	0	0	0	0	5
仲知	59	71	130	103	3	1	80	80	80	0	0	0	0	6
曽根	192	209	401	157	0	0	120	180	180	1	0	1	0	11
鯛之浦	299	388	687	194	0	0	100	200	200	0	0	0	0	17
浜串	171	176	347	185	0	0	160	160	160	0	0	1	0	7
桐	304	294	598	195	0	3	200	250	250	0	0	1	0	9
真手ノ浦	199	149	348	134	0	0	80	100	100	1	0	0	0	9
土井ノ浦	93	132	225	104	0	0	70	80	90	0	0	0	0	4
福江	540	539	1,079	463	1	2	350	450	450	0	0	2	0	25
浜脇	33	35	68	26	1	0	40	50	50	0	0	0	0	1
浦頭	126	207	333	171	3	0	200	250	250	0	0	0	0	8
奈留	173	173	346	120	0	0	80	150	150	0	0	0	0	10
水ノ浦	175	203	378	170	2	0	140	300	260	0	0	1	0	6
三井楽	117	177	294	120	1	0	160	180	180	0	0	0	0	7
貝津	65	73	138	57	0	0	50	60	60	0	0	0	0	4
井持浦	59	48	107	46	0	0	40	70	70	0	0	0	0	3
総計	25,715	31,111	56,826	17,117	169	68	11,685	15,880	17,428	21	0	76	8	765

(1) 混宗婚とは、カトリック信者とカトリック以外のキリスト信者との結婚
(2) 異宗婚とは、カトリック信者と非キリスト者との結婚

岬の聖母祭―神ノ島教会

世界平和と航海安全を願って

5月7日（日）神ノ島教会（主任司祭・山内啓輔師）で、新型コロナウイルスの影響により数年間中止となっていた毎年5月の恒例行事、「岬の聖母祭」が行われた。本来は教会下から岬の聖母像まで聖母行列を行う予定だったが、当日は雨天となったため、14時から聖堂で、世界平和と長崎の港を出る船の航海の安全を願ってロザリオの祈りをささげた。

それぞれが教会の母である聖母マリアに花をささげ、聖母を美しく装い、また、各玄義の時には子どもたちが元気よくマリア像に花をまいた。ロザリオの後、ミサを行い、引き続き皆で共に祈った。

教会関係者は、「花がささげられたマリア様とともに信者の心も清く、美しく彩られたように感じた。今年までは新型コロナのことが考慮され自小教区のみの行事となったが、来年からは周りの小教区にも参加を呼びかけ、皆で祈る機会になったらと思う」と話していた。

ルルド祭―井持浦教会

〝それぞれの場を、ルルドに〟

5月14日（日）下五島地区で、井持浦教会のルルド創設124周年を記念する「井持浦ルルド祭」が行われた。ここ数年コロナ禍のため井持浦小教区のみでの開催となっていたが、4年ぶりに下五島地区を挙げての開催となった。およそ300人が集まり、聖母行列をし、記念ミサをささげた。

ルルド祭のスローガンは「ともに祈り ともに歩む」。井持浦教会のルルドを形作る石は、かつて下五島の各教会から持ってきてささげられたものだという。この日、各地から集まり心を合わせてともに祈り続ける教会、皆が慕う聖母マリアとともにあり続ける教会の姿が感じられた。司式・説教師を務めた下五島地区長の中田輝次師は、「この体験を持ち帰って、家庭を、それぞれの場を、ルルドにしてほしい。生きた水を与える人になってほしい」と説いた。

来年はルルド創設125周年の節目を迎える。関係者は、「マリア様のご保護のもとに歩み続ける下五島の教会を思う」と語っていた。

ヨゼフ 中尾實男さん（中尾直通師の父）

4月18日、老衰のため逝去。88歳。

1934年五島市に生まれる。畑仕事、牛の肥育、漁業に従事し、ときに出稼ぎなども行いながら、10人の子どもを育てる。ミサに行くことを喜びとし、教会にあっては、祈りの先あげ（先唱）や聖書朗読を積極的に行い、家庭でもロザリオと朝晩の祈りを、子どもたちのことを想いながらささげていた。

昨年9月に米寿の祝いをしたのち、11月頃に体調を崩し、入退院を繰り返すようになる。次第に立ち上がる力を失い、声を失い、食べる力をも失う中、祈りだけは失われることがなかった。最期は自宅で娘たちにみとられながら穏やかな顔で息を引き取った。「いつも神に感謝。みんなありがとう。」―米寿の祝い時に家族に遺した言葉だった。

短信

〈堅信式〉

4月23日(日)西町教会で中村倫明大司教の司式により堅信式ミサが行われ、中学生9人、大人1人の計10人が堅信の秘跡にあずかった。

〈卯辰山殉教者祭と津和野・乙女峠まつり〉

浦上四番崩れによって全国22カ所に流配された「旅」の出来事を思い、浦上信徒らをしのんで各地でミサがささげられた。名古屋教区の卯辰山(うたつやま)では4月29日(土)に古巣 馨師（長崎教区）が、広島教区の津和野・乙女峠では5月3日(水)に前田万葉枢機卿（大阪教区）が主司式を務め、皆で祈った。

感謝

―寄付―

長崎大司教区
●薬師寺秀子様（滑石）

―香典返し―

長崎大司教区
●石山清美様（鹿子前）
故マリア石山美代子様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

召命のためのロザリオ

香焼教会が「1万連奉献運動」始める

香焼教会では、召命の問題に直面している日本のカトリック教会と長崎教区のために、今年度の神のみ言葉として「収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」（マタイ9・38）を選び、「召命のためのロザリオ1万連奉献運動」を始めた。

この運動について主任司祭のダニエル金桐旭（きんとうあさひ）師は、「子どもたちが少ない教会なので、実際に神学校や修道院に子どもを送ることができるとは限らないが、まず『主に願いなさい』というキリストの命令に従い、召命への関心を呼びかけて、召命のために祈る共同体を目指すよう、この運動を企画した」と説明した。

1年間自発的に祈りをささげ、5連につき1枚のシールを付けることで2千マスの「イエスのみ顔」を完成させるのが目標。信徒からも好評で、すでに1千連以上奉献されている。同教会は、1万連を達成した時点で長崎教区にささげる予定で、召命のために少しでも役立つきっかけとなることを期待している。

（写真は㊨聖堂に掲げられているみ言葉のバンナと㊧上から少しずつシールが貼られている「イエスのみ顔」）

第143回クルシリヨ

新型コロナウイルスの影響で実施が見送られていたクルシリヨが、5月3日（水）夕方から6日（土）まで、場所をお告げのマリア修道会本部に変更、担当司祭も一ノ瀬輝幸師に交代し、17小教区21人（男性6・女性15）の参加のもと開催された。87歳～32歳の家庭的な雰囲気の中、祈りと犠牲に支えられ、参加者はキリストとの真の出会いへと導かれた。稲佐1、城山1、三ツ山1、中町1、飽の浦1、八幡町1、深堀1、香焼1、滑石1、相浦2、鹿子前1、俵町1、平戸1、西木場2、鯛之浦2、浜串2、三井楽1。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

青年のための巡礼ウオーク

教区召命委員会が呼びかけ　平戸方面へ

教区召命委員会（辻原達也委員長）は5月4日（木）から5日（金）にかけて、青年のための巡礼ウオークを開催した。参加者は13人、スタッフ10人にシスター方も有志で加わった。

今年は生月、平戸、田平を巡るコース。雨天決行での実施の中、あいにく初日の雨に見舞われたが、誰ひとり諦めることなく殉教者をしのんで歩き続けた。その後、紐差教会に移動し、信徒の方々から温かいもてなしを受けて1日目が終了。2日目は平戸教会からスタート。平戸地区長の川内和則師の祝福をいただき、焼罪史跡公園、田平教会を目指した。参加者は、全行程約20㎞の道のりを笑顔で完歩した。

主催した召命委員会は、「同世代の仲間たちと同じ目的地を目指して歩けたことは、貴重な体験となったはず。人生を共に歩いてくださるイエス様と会話しながら、困難を乗り越え、それぞれの召命の道のりを力強く歩いてもらえたら」と願いを語った。

みことばにふれて 201

楠本　静子
（長崎教区信仰教育委員会、天神教会 カテキスタ）

インマヌエル…この名は、
「神はわたしたちとともにおられる」
（マタイ1・23）

金曜日の夕方、天神教会の小さな駐車場は、子どもたちのにぎやかな声であふれる。かくれんぼ、ドッヂビーなど、それと若い神父様と一緒にいるのが何よりもうれしい。けいこの前後、20分程度ではあるが、これは子どもたちにとって教会学校に来る一番の楽しみでもある。

4年前、天神教会は司祭不在の危機に見舞われた。主任神父様が隣の三浦町教会を兼任されることになったのだ。天神教会は建てられた当初、三浦町教会の巡回教会だったので、また元に戻るかもしれない。私は「インマヌエル」のお姿が遠のいたように感じていた。

そして、2年前、やっと新しい神父様が来られることになったが、韓国から派遣され、若くて、主任司祭をされるのも初めてだという。新しい神父様が到着される日、信徒たちは不安と期待が入り混じる中、かたずをのんで待っていた。黒い服で固めた長身の若い方が車から降りると、大股で聖堂の中へ入って行かれた。

まもなく信徒たちの拍手で迎えられ、質問攻めにあう。

「何歳ですか？」「33歳」
「ああ、イエス様と同じ年だ！」
「日本に来て何年？」「6年」

「日本語は、大丈夫？」などなど。

年度初めの教会学校保護者会では、神父様は流ちょうな日本語で、てきぱきと受け答えをされて保護者も一安心。今までの心配は杞憂（きゆう）に過ぎなかったのだ。一番喜んだのは子どもたちだった。それは冒頭に記した通りである。

私たちカテキスタは、高齢で、子どもたちと一緒に遊ぶことができず、心苦しい思いをしていた。元気で若い神父様と楽しく遊んでいる子どもたちを見るたびに、私は若いイエス様のお姿を想像し、「インマヌエル…神はわたしたちとともにおられる」のみことばを思い出すのである。若い主任神父様をお迎えして以来、このみことばを味わう機会が増えたように感じている。子どもたちにとっても、神父様との楽しいひとときは、忘れがたい貴重な体験であり、これから先、イエス様との親しい交わりに導かれていくにちがいない。

人

ベトナムから長崎へ派遣されて1年

〝すべての出来事の中に神は共におられる〟

聖ビンセンシオの宣教会
アウグスチン・ファム グェン ホアン トゥ神父

長崎においても外国人信徒が増えつつある昨今、2020年長崎教区の招きに応え、昨年4月に聖ビンセンシオの宣教会ベトナム管区から長崎教区へ派遣された。トゥ神父は「中村大司教様と高見大司教様に心から感謝いたします。これは、教会共同体、特に在長崎のベトナム人共同体に対する、牧者としての大司教様の深い愛を示しておられると感じました」と話す。

同宣教会は「すべての人、特に貧しい人に仕えるために」という精神で、派遣されることを使命とする。この1年、「言葉の壁はあるものの穏やかに過ごすことができた」。平日は日本語学校に通い（あと1年通学）、土曜日は若者たちに向けオンラインでの結婚講座。日曜日は諫早、島原、福岡、5月からは佐世保でも、各教会で月1回ベトナム語のミサを行う。「若者たちは家族と国を離れ日本で勉強しながら働いているので、〝信仰の火〟が冷めないようせめて毎月1回、母国語ミサに参加するよう励ましています」若者たちに日本語ミサへの参加も勧め、日本人信徒との交流を願っている。

ベトナム南部のドンナイ県出身。村の皆が信者で、活動も熱心、多くの司祭・修道者が生まれた。家族や友人からの影響もあったが、小さい頃からシスターである叔母がよく声をかけ、かわいがってくれた。「ベトナムには『召命は家庭と小教区の中で育まれる』という言葉があります。召命は神様からの贈り物で神秘的だから理解できるものではありませんが、毎日、祈り、出会い、神様の愛の体験を通してこの召命を覚悟することができました。修道司祭になった理由は本当に分かりません。ただ、宣教会の精神、『貧しい人々のために、自分の手、額の汗で仕える』という中で生きたいと自分の召命を見いだしました」

子どもの頃から好きなみ言葉は「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい」（詩編37・5）。日本への派遣を含め人生のあらゆる出来事の中でこのみ言葉を黙想するたび、生きる力となり、困難から立ち上がる力となった。「黙想すればするほど『すべての出来事の中に神様は共におられる』と感じました。ですから、恐れることはなく、すべてのことを神様に委ねています」

長崎で最初に心に残ったことを問うと、「空港に着いた時、中村大司教様が迎えに来てくださっていて本当に驚きました。お心遣いをとてもうれしく思いました」と語る。ベトナムにいる友人たちから長崎の各地を巡ったか尋ねられるという。「急がずゆっくり見学していけたら…長崎は観光都市であるにもかかわらず静かで、古い教会がたくさんあることも知りました。どの教会も、厳粛で心地良く、祈りに満ちた雰囲気です」

温厚で柔和な印象。自身を「静かな人」と評するが、教会の仲間からは「疲れた時におもしろいことを言ってみんなを笑わせ、疲れを吹き飛ばしてくれる」という声も。新型コロナが一時落ち着いた頃、2021年4月8日に11人の会員と共に司祭に叙階された。40歳。

長崎教区における新型コロナ感染症の5類感染症移行後の対応

新型コロナウイルス感染症の位置付けが、今年5月8日から「5類感染症」になった。これを受け長崎教区は、5月9日付で教区内の小教区と諸活動団体に、今後の対応として「マスク着用の判断」と「手洗い等の手指衛生と換気の継続」に関し、それぞれの事情と状況を踏まえ慎重に判断するよう呼びかけた。

訂正

〈二〇二三年度『カトリック教会祝日表』〉

・41頁の「教区外在住司祭」のページに次の通り追加をお願いいたします。

カトリック中央協議会
〒135-8585
東京都江東区潮見2-10-10
TEL 03-5632-4411
FAX 03-5632-4453
ガブリエル尾高修一師

・24頁の「日本廿六聖人殉教ミサ」は、2月5日（月）に開催されるかのような表記となっていますが、例年通り2月の第1日曜日（2024年は2月4日）に開催予定です。

・27頁の「春分の日」を3月21日（木）としていますが、正しくは3月20日（水）です。

7月号は休刊いたします

CALIS Catholic Life Service
カリス通信　6月号
海外旅行保険のご紹介

留学、出張、視察、会議出席、巡礼などで海外へ行かれる場合、日本国内とは異なるリスクマネジメントが必要です。「日本で発生する事故は海外でも発生する」ことに加え、「日本であまり発生しない事故が海外で発生する」と言われております。また、海外では驚くほど医療費が高い国もあり、救急車でさえ無料とは限りません。カリスでは、海外渡航されるカトリックに関係する皆様を対象に、「海外旅行保険」のご案内とご加入をお勧めしております。

《海外旅行保険事故例》
事例1：機内で嘔吐が始まり、空港到着後に意識を失い、救急車で搬送。17日間入院し、医師付き添いで帰国。（ホノルル）
支払額：3,262万円
事例2：観光中に階段で転倒、病院に搬送され骨折と診断。都市まで搬送の上、手術した。（トルコ）**支払額：633万円**

《主な補償について》
①**傷害・疾病死亡補償**：ケガや病気が原因で亡くなってしまった場合に補償します。
②**治療・救援費用補償**：ケガや病気が原因で治療が必要になった場合の治療費を補償します。
③**賠償責任補償**：他人にケガをさせてしまった場合、他人の物を壊してしまった場合に補償します。
④**携行品損害補償**：盗難に遭い盗まれたものが出てこなかった、スマートフォンを落として壊してしまった場合等に補償します。

まずは、お見積りに必要な項目として、①出国日②帰国日③渡航目的をお伺いした上で、お客様のご希望の補償内容、ご予算に合わせてお見積りをいたします。

※本ご案内は「海外旅行保険」の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
23TC-000435（2023年4月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください